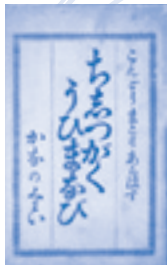




本校創立者・近藤真琴先生（1831～1886）

創立者・近藤真琴先生

本校の創立者である近藤真琴先生は、天保2（1831）年に鳥羽藩士近藤家の次男として、江戸麹町の鳥羽藩上屋敷に生まれました。早くに父を亡くしましたが、教育熱心な母から漢籍の素読を受けて育ち、成人してからは蘭学、数学、航海・測量術、兵学などのほか、独学で英語やドイツ語をも習得するなど、博学多才の士として我が国の教育界に大きな業績を残しました。



地質学の入門書



算術教科書



近藤先生は数学や航海学、地質学の教科書をはじめ、国語辞書や文法書、洋書の翻訳書など、驚くほど多岐にわたる分野の著書を著した。



明治9（1876）年には女子科も設置された。

攻玉社の開学

文久3（1863）年、その教えを請う者たちの求めに応じて、近藤先生は江戸四谷坂町の鳥羽藩邸内の自宅に私塾を興しました。塾生は20名ほど。後に攻玉塾と呼ばれたこの私塾こそが、以来1世紀半にも及ぶ本校の歴史の始まりです。慶応3（1867）年に大政奉還となり、幕藩体制は終焉を迎えましたが、先生はいち早く新しい日本にふさわしい教育の必要性を痛感し、私財を投じてわずか数年のうちに、幼年科、航海測量習練所、女子科、陸地測量習練所、専修数学科、海軍別科、鳥羽商船分費など、驚くほど多種多様の学校を展開していきました。近藤先生こそは我が国における学校教育のパイオニアの一人であり、後には明治六大教育家の一人として称えられました。また、当時の攻玉塾は理数系の塾として、福沢諭吉の慶應義塾、中村正直の同人社とともに東京の三大義塾の一つに数えられました。

校地・校舎の移り変わり

江戸四谷坂町の鳥羽藩邸内に開いた攻玉塾は、その後、移転や焼失などさまざまな変遷をたどることになります。新政府のもとで近藤先生は東京・築地の海軍操練所で教鞭をとることになり、それに伴い明治2（1869）年、塾も操練所内の官舎に移りました。さらに明治4年には、三田に移った慶應義塾の土地と校舎を福沢諭吉から購入し、芝新銭座（現・港区浜松町）に移転。明治12年には校名も攻玉社と改称され、以後、大正に至るまで芝新銭座の地で各種の教育を展開していきました。しかし、大正12（1923）年の関東大震災により、校舎は全焼。これを機に校地移転を決定し、大正14（1925）年9月、現在の地に移転しました。その後も太平洋戦争中の空襲による火災などの憂き目に遭うものの、戦後は再建と拡充につとめ、平成15（2003）年には旧校舎を解体し、現在の姿に生まれ変わりました。



不動前駅の様子（昭和13年）
「目黒蒲田電鉄」と記されている。



明治19（1886）年に設置された専修数学科では、当時の最高レベルの教育を受けることができ、「数学の攻玉社」と称された。



昭和45年頃の校舎全景


優秀な人材を輩出

本校は創立以来、国家・社会に有為にして国際社会に貢献する多くの人材を送り出してきました。明治・大正・昭和・平成——それぞれの時代の要請に応じて、海軍や海運、政界、実業界、また学術・芸術の分野、土木などの技術分野、さらに近年は医学分野への進出も目覚しく、卒業生たちはそれぞれの分野において本校で培った攻玉社の精神と実力を遺憾なく発揮しています。



◆4号館2階の学園資料展示室では、本校が所蔵する近藤真琴先生の著書、書簡、書画、草創期の学園資料等、またこれまでに輩出した著名人のパネル展示なども常時公開・展示しております。ご来校の折にはぜひお立ち寄りください。

攻玉社のあゆみ

	年号	出来事
	1863年 （文久3年）	江戸四谷坂町鳥羽藩邸内に蘭学塾を開く。創立者、近藤真琴（こんどう・まこと）は、数学・航海術・測量術に秀でた蘭学者であった。
	1869年 （明治2年）	真琴兵部省に出仕。築地海軍操練所（のちの海軍兵学校）内に塾を移す。塾名を攻玉塾とする。
	1871年 （明治4年）	芝新銭座（今の浜松町）の慶應義塾跡へ移転。学科は航海・測量術・和・漢・英・蘭数が設定された。
	1872年 （明治5年）	文部省より学制が頒布され、攻玉社として、あらためて開学した。塾則が定められるとともに、幼年科の設置、教育課程の確立等、全般にわたって近代的に充実・整備される。なお、現在の校訓「誠意・礼讓・質実剛健」は、この塾則をもとにしたものである。
	1875年 （明治8年）	わが国最初の航海測量習練所（商船学校）を設置。
	1880年 （明治13年）	陸地測量習練所（土木測量）を開設（攻玉社短大の前身）。
	1881年 （明治14年）	三重県鳥羽に、商船学校の分校（現在の国立鳥羽商船高等専門学校）の前身）を設置。
	1886年 （明治19年）	9月4日、近藤真琴没。享年56歳。この秋、商船学校を廃止。
	1889年 （明治22年）	海軍を志願する者のために海軍予備科を設置。これはのちに海軍中学校と改称され、やがて尋常中学校に合併された。
	1893年 （明治26年）	青年科が尋常中学校としての認可を得る。
	1925年 （大正14年）	9月芝新銭座から、品川区西五反田の現在地に校舎を新築して移転。丘上にそりたつ白亜の鉄筋コンクリートの校舎が生徒たちの新しい人間形成の場となる。
	1931年 （昭和6年）	攻玉社商業学校を開設。
	1947年 （昭和22年）	学制改革により、新制攻玉社中学校発足。翌48年、新制攻玉社高等学校発足。
	1954年 （昭和29年）	攻玉社高等学校商業科を独立して、攻玉社商業高等学校として発足。
	1963年 （昭和38年）	創立者・近藤真琴が四谷坂町に蘭学塾を創立して以来の100年を記念する式典を日比谷公会堂において行う。
	1966年 （昭和41年）	6年「買英才開発教育を始める」。
	1974年 （昭和49年）	商業高等学校休校。（1995年11月、廃止）
	1983年 （昭和58年）	日比谷公会堂において創立120周年記念式典を盛大に行い、記念事業として新校舎、地下温水プール等を建設する。
	1988年 （昭和63年）	攻玉社後援会設立。
	1990年 （平成2年）	国際学級開設。
	1993年 （平成5年）	渋谷公会堂において創立130周年記念式典を行う。
	1995年 （平成7年）	特別教室を収容する中層棟（現2号館）完成。
	2003年 （平成15年）	地下2階（体育館兼講堂）・地上7階の新校舎（1号館）および校庭完成。東京簡易保険会館（ゆづぽう）において創立140周年記念式典を行う。
	2007年 （平成19年）	工科短期大学の募集を停止。（2008年12月、廃止）
	2009年 （平成21年）	3号館を改修。
	2010年 （平成22年）	5・6年次のクラスを8クラス編成とする。
	2013年 （平成25年）	グランドプリンスホテル新高輪において創立150周年記念式典を行う。
	2015年 （平成27年）	併設型中高（貫教育校）に移行。
 <div> ■卒業生総数：60,699名 中 学 （昭和22年～平成30年3月） 44,283名 高 校 （昭和23年～平成30年3月） 16,416名 </div>		